

群馬大学工学部同窓記念館、桐生織物記念館 & 桐生倶楽部会館見学

第2回街中散策が11月26日行われました。理工学部の池の周りに集合し、“織都桐生”案内人の会の会員さんに案内していただきました。前回同様ガイド役は、桐生支部会員でもある高野さん、他にガイド研修中の方と交通整理係とおっしゃる方が同行してくださいました。今回も、英語で説明していただきました。留学生6名、桐生支部からは4名が参加しました。

先ず群馬大学工学部同窓記念会館(桐生高等染色学校の講堂として1916年に建築)の外観、および内部を案内していただきました。毎日外からは見えても、中に入ったことがなかった留学生が大半で、想定外の時間をかけて見学しました。特に工学部設立 50 周年、75 周年、100 周年の寄せ書きには興味を示していました。

記念館を出ると、低速電動コミュニティバス(MAYU、まゆ)が待っていてくれました。工業会事務室で保管されていた MAYU 乗車無料券のおかげで、日曜日だったにもかかわらず、無料で送迎していただきました。当日は気温が下がり寒かったのですが、ビニールシートで風よけがされていました。MAYU は見かけたことはあるけれども乗ったことはないと言っていた留学生は喜んでいました。時速 Max 19km/h、後続車に道を譲りながらの運行でした。大学から織物記念館(1934 年建築、国の登録有形文化財)まで、MAYU で送っていただき、織物記念館 2 階の資料展示室を見学させていただきました。英語の字幕付きのビデオを見て、館内を見学、機織り体験もさせていただきました。

織物記念館からは、細い路地を歩いて桐生倶楽部会館に行きました。途中の建物についても説明をしていただきました。昼食前だったので、学生さんが食堂の前でメニューに興味深そうに見ていたのが印象に残りました。ガイドさんになるためには、資格試験があるのだそうですが、よくこのような路地までご存知なことと思いました。

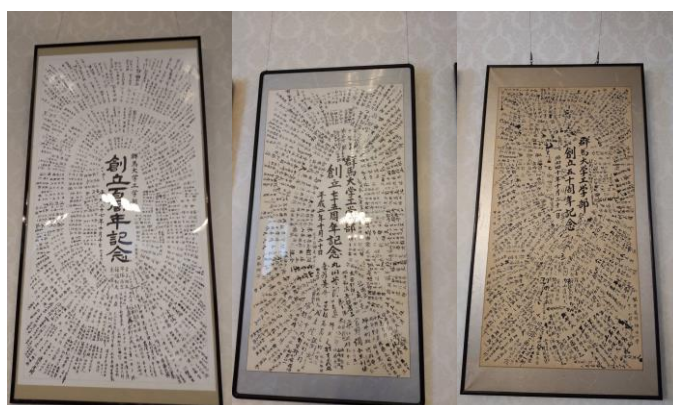
桐生倶楽部会館は、1919 年に建てられた日本初のスパニッシュ建築とされています。瓦は、輸入できなかったため、日本瓦に色付けをしたものとか、織物産業が盛んだった桐生の誇りとされています。

内部は、幾何学模様を生かしたセセッションで、外観も内部も桐生の最盛期を示すものでした。100年以上経ったものとは思えないほど、調度品もそのままの形で残され、いかに大切に守られてきたかがよくわかりました。日曜日にもかかわらず、快く見学をお許しくださり、懇切丁寧に説明してくださって感謝しております。

大学への帰路も MAYU にのせていただきました。第1回目の街中散策同様、桐生の方々のご親切、おもてなしの心に感謝した時間でした。

写真を載せますので、学生時代を懐かしく思い出していただけると幸いです。

桐生支部参加者一同



左から創立100、75、50周年の記念寄せ書き。記念館に展示。



MAYU に乗って織物記念館に移動。



織物記念館にて



桐生倶楽部会館にて